

新生児退院へ専門職配置

療養生活指導や通院を調整

新年度

県立中央病院は新年度、新生児集中治療室(NICU)にいる新生児の退院へ向け、専門のコーディネーター人を配置する。家族が退院に不安を抱えるなどして入院が長引くケースもあるといい、コーディネーターが、退院後の生活についての指導や、通院する医療機関との連絡調整などを担い、きめ細やかに家族をサポートしていく。

〈青柳秀弥〉

県医務課によると、未熟児

らを受け入れるNICUは同病院に12床ある。2011年は167人が入院。入院が長引くケースもあり、病床利用率は80～90%とほぼ満床状態が続く。病床が空いていないと緊急の受け入れに対応できず、同病院で出産後、別病院のNICUに入院するケース

もある。

入院が長期化する理由は、新生児の体調によるものだけとは限らないという。退院後の自宅での療養環境が整わなかったり、家族が退院に不安を抱えたりする状況があるといい、これまで同病院の看護師らが、退院に向けた家族らへの支援を行っている

状況。

コーディネーターは、入院する新生児や家庭状況に応じた退院支援計画を作成。退院後の療養生活で必要な環境づくりをサポートし、通院の利便性などを考慮して医療施設との連絡調整を行う。コーディネーターが退院を支援することで、NICUのほぼ満床

に近い状況の改善にもつながっていきたい考え。